

# 避難母子に保育支援

山形のNPO

専用施設9月オープン

福島第一原発事故の影響で福島から避難している幼い子を対象にした初めての保育施設「あいびい保育園」が9月初旬、山形市内に開園する。

被災地での保育支援に取り組む同市のNPO法人「IVY」（国際ボランティアセンター山形）が開設。自らも避難者である保育士5人が子どもを預かり、避難生活を続ける母親たちを経済的、精神的に支援する。

「あいびい保育園」は、舎。既に園児の募集を始 対象は、生後6カ月かIVYが山形市小白川に め、内装などの模様替えら就学前までの子どもで借りた平屋の建物が園 にも着手した。 定員は30人。平日の午前



園舎となる建物で模様替えの打ち合わせをするIVYの今野けい子さん(右)

## 「経済・精神面安定を」

### 低料金、スタッフに避難者

8時〜午後6時に保育するなどの面からも保育環境を整備が大きな課題とう。避難者の負担を極力減らすため、保育料を月2万3000円〜2万5000円と一般的な認可外保育所の半額程度に抑える。

福島市から避難し、今回スタッフの一人となった被災地で、廃園や休止に追い込まれた保育施設の再生を、保育士の人件費負担などの形で支援して苦しくなってきた。これに着目した山形の避難者支援関係者らから相談を持ち掛けられる環境が必要だった」とIVYの支えに感謝する。

保育園担当のIVY震災支援コーディネーターは、保育士5人に任せる。今野けい子さんは「山形IVYは人件費を負担し、経理、労務管理なども、避難生活を安定的に健やかに送れるよう、手を携えて歩いていく。」

山形への避難者は母子で移り住んだケースが多く、育児ストレス緩和など、連絡先はIVY023(634)9830。